



平成30年産水稲の準備について

年も明けて、いよいよ平成30年産水稲栽培の準備が本格的に始まってくる時期ではないでしょうか。春から本格的にやってくる水稲栽培の前に、今回は、冬場の本田管理についてご説明します。

☆前作収穫後のすき込みはできていますか？

前作の収穫後に本田の稲わらをすき込むことは、稲わらなどの有機物が、土壌微生物の活動を助け、養分を保持する力を強くします。また、前作で発生した病害虫は、切り株や稲わらに付いて越冬するため、すき込み作業を実施することによって、切り株や稲わらといった越冬源を地中にすき込むことができ、病害虫を減らす効果もあります。

まだ一度もすき込み作業ができていない圃場については速やかにすき込み作業を実施しましょう。

☆冬場の耕耘作業のポイント

①ここがポイント！

① 昨年の作付の際、いもち病(図1)が発生した圃場の稲わらには、い

もち病菌が翌春まで生存し感染源となります。稲わらはしっかりとすき込んで腐熟させるか、圃場の外へ搬出しましょう。

②ここがポイント！

掘り起こした土を低温にさらすことで病原菌や害虫、雑草等の密度を下げるのに有効です。耕した土は、なるべく表面に凹凸があるままにしておき、寒気に触れる面を大きくしておきましょう。

③ここがポイント！

塊茎や根っこを土中に残して繁殖するもの(クログワイ、オモダカ 図2)は防除が難しく、稲刈り後の防除が重要です。塊茎は乾燥や寒さに弱いので、冬のこの時期にしっかりと田起こしをしましょう。全ての塊茎を地上部に出せなくても、翌年の発生源を減らすことができます。

土づくりは今からでも遅くはありません!!

「稲は土(地力)でつくれ、

といわれます。水稲の収量は地力に依存する割合が60%前後と大きく、土壌有機物等が大きく寄与しています。

『深耕して作土を深くする』

ロータリー耕中心の圃場では耕起が浅くなっている場合が多いので、深く掘り下げる(目標15cm以上)改善を行いましょ。

『排水を行い乾田化を進める』

秋・冬期に補助暗渠・明渠により乾田化を進めましょ。

『有機物を施用する』

地力を保全、保肥力を維持していくために、稲わらの鋤込みはもとより、堆肥等による有機物施用を行いましょ。

『土づくり資材の施用』

植物が生育するためには、窒素・リン酸・カリ以外にミネラル成分(微量要素)が必要です。なかでも、水稲は他の植物に比べケイ酸、鉄分を特に必要とします。とれ太郎(図3)などの資材で補給ましょ。



図1



図2



図3

平成30年湖南地域農業振興大会開催のご案内

| | | | |
|-------|---|---|-------------|
| 日 | 時 | 平成30年2月17日(土) | 13:30~16:00 |
| 会 | 場 | 野洲市さざなみホール(野洲市比留田3313-3番地) | |
| 参加者 | | 湖南地域管内の農業者は誰でも参加できます。 | |
| プログラム | | 1. 情報提供【平成30年度に向けた農業施策について】 近畿農政局 滋賀支局 宮本 孝氏 2. 事例発表【湖南地域野菜振興協議会“近江のキャベツ”の取り組み】 JAおうみ富士 営農推進課 水木 誠氏 3. 基調講演【農家所得の向上に向けた複合経営の推進】 JAとなみ野(富山県) 常務理事 土田 英雄氏 | |
| 主催 | | 湖南地域農業センター 〒520-2331 野洲市小篠原2142-3 TEL 077-587-0481 FAX 077-587-2525 | |

野菜づくり

今月は
冬期の果樹の管理方法

病害虫に負けない樹を作ろう！ 冬期の果樹の管理方法

皆さんの家でもいろいろな果樹を栽培されている方が多いと思います。病気や害虫に強い樹を作るためには、冬期の管理が重要になってきます。今回は、冬期の果樹の管理方法をご紹介します。

■落葉処理

果樹に発生する病害虫は、落葉などに寄生して越冬し、翌年に落葉から胞子を生じて飛び散り、再び新しい葉などに感染して発病します。このため、落葉はそのまま放置せず、出来るだけ丁寧に集めて、土中に埋めるなど適切に処分しましょう。

■樹幹の粗皮削り

果樹の樹皮は、古くなると表面に亀裂を生じ、デコボコになります。このデコボコした樹皮の隙間に、各種病原菌やハダニ類、カイガラムシ類、ハマキムシ類、シンクイムシ類などが入り込み、そこが越冬する場所となります。



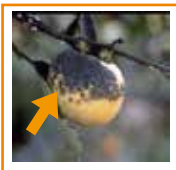
冬期の果樹の管理方法

このため、樹皮の表面を鎌などで削り取って滑らかにすることで、病害虫の越冬する場所を減らし、越冬密度を低下させることができます。特に、枝の股になつていたり、樹皮の割れ目には、病害虫の越冬場所になりやすいので、念入りに削り取りましょう。

■冬期の薬剤防除

越冬中の病害虫に対

して、防除効果のある薬剤を散布しましょう。各種病害虫に対して効果的なのは、「石灰硫黄合剤」や「カイガラムシ油剤」の散布が効果的です。これらの薬剤は、新芽が動くまで散布することが重要で、風のない穏やかな日に、かけむらのないよう丁寧に散布して下さい。また、石灰硫黄合剤と機械油乳剤の混合は絶対に避けてください。また、機械油乳剤の散布した後は、1週間以上あけるようにしましょう。



カイガラムシなどの害虫を放置するとすず病の発生原因になります。



柿に発生したカイガラムシ



粗皮を削りましょう

| 薬剤名 | 対象果樹 | 対象病害虫 | 希釈倍率 | 使用時期 |
|----------|--------------------|-------------------------------------|---------|------|
| 石灰硫黄合剤 | 落葉果樹 (柿、もも、うめ等) | カイガラムシ類、 ハダニ類 縮葉病、黒星病 | 7倍 | 発芽前 |
| | みかん | ハダニ類、そうか病、黒点病 | 80~200倍 | 冬期 |
| 機械油乳剤 95 | 落葉果樹 (柿、もも、なし等) | カイガラムシ、 サビダニ ハダニ類 及びその他越冬卵 | 16~24倍 | 発芽前 |
| | かんきつ | | 30~45倍 | 冬期 |

※薬剤の使用にあたっては、容器等の記載ラベルに従って使用下さい。

今月のレシピ

ネギのシャキシャキとした食感と香りがおいしさの秘訣



ネギのちりめんじゃこ和え

★材料 (4人分)

| | | | |
|-----------|-------------|---------|-----|
| 長ネギ(白い部分) | 大2本(240g) | ちりめんじゃこ | 40g |
| シュンギク | 1/5把(正味40g) | ゴマ油 | 塩 |
| | | コショウ | |

★作り方

- 長ネギは縦半分になり、斜めに千切りにする。シュンギクは葉を摘む。合わせて冷水に入れ、パリッとしたり、ざるに上げて水けを切る。
- ちりめんじゃこは弱火でカリッとするまでから煎りする。
- ボウルに①を入れてゴマ油大さじ3をふり、全体をよく混ぜる。塩小さじ1/4、コショウ少々、②を加えて混ぜる。

灯油配達のご注文は ☎552-0533・552-7534 まで。(株)JA 栗東市